

- ① ・患者さんと職員の役に立つ最新システムへ更新。
質の高い医療をより迅速・安全に提供します。
・新任のご挨拶
- ② ・教えて！この言葉「病理診断」
・病院からのお知らせ
・ナディック通信

TOPICS ① 患者さんと職員の役に立つ最新システムへ更新。 質の高い医療をより迅速・安全に提供します。



名大病院では電子カルテシステムを定期的に更新しており、2025年1月から第8次システムが稼働しています。システム更新により何が変わり、どのような効果が生まれたのか。更新作業を担当した電子カルテ管理室の皆さんにお話を伺いました。

現場の声を反映した「使いやすいシステム」へ

今回の更新では、「現場の声」を反映するために管理体制から見直しました。更新に先立ち2022年に電子カルテ管理室を新設し、各部門から推薦された毎日カルテを使っている多職種のメンバーがシステム設計に参画。目指したのは、業務に即した使いやすいシステムへの改善です。

その結果、カルテを使う多くの業務が効率化されました。新たに導入されたチーム医療支援システムにより、多職種間での電子カルテの参照・記載が可能になり、情報共有が円滑になっています。また、医薬品や医療材料の在庫管理では、必要なものが必要な量だけ、必要な場所に整理され、使用履歴の追跡も容易になりました。他にも、治験や臨床研究における薬剤の管理体制や検体の受け渡しが確認できる仕組み、災害時に備えたデータのバックアップ体制などが強化されています。

医療の質を高め、患者さんの利便性もアップ

システム更新は、患者さんにも大きなメリットをもたらしています。まず、医師による入院患者さんの薬の処方手続きの効率化により、痛み止めなど既に指示されたお薬については、今までよりも速やかに患者さんに提供できるようになりました。また、薬剤は常にバーコードで管理され、調剤ミスの防止にもつながっています。放射線部門では、患者さんの被ばく線量管理システムの充実や読影端末の性能向上により、安全性と画像診断の質がさらに向上しています。

加えて、ゲノム医療システムの新設により、治療に必要な家系図などの情報を一元管理できるようになったほか、入院患者さんの食事の嗜好をデータ化し、再入院時の対応も改善されています。また、マイナ保険証をご利用いただくことで、他の医療機関での検査結果やお薬の情報を確認できるなど、さまざまな面でより質の高い医療サービスの提供が可能となっています。その他にも会計では便利なスマホ決済が可能となり、7月からの電子署名システム導入後は、同意書などへの患者さんのデジタル署名が実現し、ペーパーレス化が一層進みます。

もちろん、職員の生体認証ログインはもとよりランサムウェア対策などを強化してセキュリティ面も万全を期し、大切な患者さんの個人情報保護を保証しています。

AI活用に向けて、次なる一歩を

第9次システム更新を見据えて検討しているのは、医療現場におけるAIの活用です。まずは入院記録の要約といった業務支援からスタートし、いずれは診断支援AIの導入も視野に入れています。

また、医師の働き方改革の観点から、既に画像診断については院外PCから報告書の作成が可能な環境を整えています。リモート診療の導入も検討する必要があります。病院外から医師がカルテにアクセスし、どこまで診察や診断がセキュアに実現できるのか。その可否も含め、あらゆるリスクを考慮しながら検討を進めていきます。

システム更新に終わりはありません。今後も電子カルテ管理室を中心に現場の課題を整理し、医療の質と患者さんの利便性・安全性、職員の働きやすさの向上を図っていきます。



▲電子カルテ管理室の皆さん

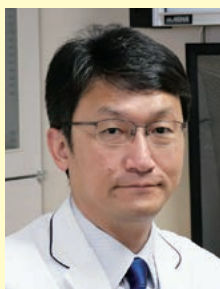
新任のご挨拶

消化器・腫瘍外科（消化管）長／教授 神田 光郎



令和7年4月1日付で消化器・腫瘍外科（消化管）の科長／教授を拝命いたしました神田光郎と申します。食道・胃・小腸・大腸・肛門といった消化管全域の外科治療を専門とし、がん、良性腫瘍、炎症性腸疾患、高度肥満症など幅広い疾患に対応しています。患者さんの負担を軽減するため、大部分をロボット支援下手術や腹腔鏡手術などの低侵襲手術で行っています。また、切除後の消化管再建にも力を入れ、術後の生活の質を維持する工夫を重ねています。治療について詳しく説明いたしますので、疑問や不安があれば遠慮なくご相談ください。

脳卒中医療管理センター長／脳神経外科長／教授 齋藤 竜太



令和7年4月1日付で脳卒中医療管理センター長を拝命いたしました齋藤竜太と申します。脳卒中医療管理センターは、東海地区の医療機関や自治体と連携し、情報化技術を活用した患者・市民中心の脳卒中連携医療の確立を目指してきました。構築したICT基盤（「J電子@連絡帳」）は、愛知県を中心に76区市町村に地域医療・福祉統合ネットワークとして導入され、令和6年11月末時点で、専門職2万6千人以上が参加し、登録患者は5万人以上にのぼります。今後も事業を拡大し、予防やリハビリ、相談支援を通じて、患者さんや市民の皆様の生活の質向上を目指していきます。

難治性疾患診療部長／消化器内科長／教授 川嶋 啓揮



令和7年4月1日付で難治性疾患診療部の部長を拝命いたしました川嶋啓揮と申します。難治性疾患診療部は、今後が増えることが予想される難治性疾患に柔軟に対応できるように、従来のてんかんセンター、炎症性腸疾患治療センター、神経線維腫症総合医療センターを取りまとめた発足した新たな診療部です。それぞれの難病センターの独立性を保ちながら横の連携を強化し、新たな難治性疾患への対応を迅速に行い、効率よく専門的な診療を提供することを目的としています。より充実した診療を目指していきますので、よろしくお願い致します。

新任のご挨拶

先端医療開発部長／教授 橋詰 淳

令和7年5月1日付で先端医療開発部長／教授を拝命いたしました橋詰淳と申します。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

日々使うお薬や医療機器は、使えるようになるまでに、長い時間と多くの人々の努力が必要です。特に、患者さんや市民の皆様様の臨床研究へのご協力が、未来の医療を支える大きな力になっています。

先端医療開発部では、安全で効果の高い医療を社会に届けるための研究開発を支援しています。これからも皆様とともに、よりよい医療を未来に届けられるよう、全力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



事務部／部長 竹本 浩伸

この度、令和7年4月から名大病院事務部長に就任いたしました。どうぞよろしくお願ひ致します。

当院は、「診療・教育・研究を通じて社会に貢献します」という理念の下、安全かつ高度な医療を提供するとともに、将来にわたって質の高い医療を提供できるよう、日夜取り組んでいます。

近年の物価高騰の影響もあり、当院の経営は厳しい状況にあります。医師や看護師をはじめとする医療従事者と事務職員が一丸となって病院機能の維持・向上に取り組

組み、社会に貢献できるよう、精一杯努めてまいります。



提案書からの改善報告

病院からの お知らせ

当院では、患者さんが利用する設備や機器などについて、日々の点検や定期的な更新を行っています。加えて、患者さんへのサービス・アメニティ等の満足度向上を目指し、患者満足度委員会において、院内に設置してある提案箱へ投函された提案書のご意見から、サービス改善策を検討し実施しています。

現在、1ヶ月あたり約50件のご提案をいただいております。提案書は、回収次第、現場で対応可能なものから優先的に改善を行い、その後開催される委員会にて1件ずつ確認・検討することで、院内のサービス向上に努めています。

サービス改善における主な対応については、外来棟1階中央待合ホールに設置されているモニターへ掲示しております。

〈2024年度下半期 改善実施事例〉

「文書作成に関する FAQ の掲示について」

文書受付窓口の混雑に関するご意見を踏まえ、質問の待ち時間を短縮することを目的として、よくある質問とその回答を掲示することで、窓口の混雑緩和に向けた取り組みを行いました。



【ケアグッズのご寄贈をいただきました】

「がん哲学外来メディカルカフェ シャチホコ記念」様よりケア帽子や巾着などのご寄贈をいただきました。パッソ工房（就労継続支援B型事業所）にて一つひとつ丁寧に手作りされた、草木染めの味わい深い、温かみのあるケアグッズです。



（問い合わせ先 地域連携・患者相談センター 052-744-2663）

教えて！

この言葉

病理診断

病理部 病院准教授 榊原 綾子

病院を受診すると、いろいろな検査を受け、病名が診断され、治療が始まりますね。適切な治療のためには、適切な診断が必要です。そこで最終診断として大きな役割を果たすのが「病理診断」です。

患者さんの体から採取された病変（検体）からガラス標本（プレパレート）を作り、この標本を顕微鏡で観察して診断するのが「病理診断」、病理診断を専門とする医師が病理医です。大腸ポリープ、皮膚腫瘍、肺癌、そのほかにもいろいろ…すべての病理検体を診断しています。

病理診断は「医行為」（医師免許が必要）であり、正確な診断のためには患者さんの全身状態や病歴の把握が不可欠です。病理医は、主治医と話し合い、カルテ内容を吟味し、医学用語満載の詳細な病理診断報告書を作成します。主治医は報告書を十分に理解して診断・治療に役立て、内容を患者さんにわかりやすく説明します。

病理医が患者さんと直接お話しすることはありませんが、主治医の先生を通して、また、カルテや病理診断報告書を通して、病理医は患者さんと（間接的に）向き合っています。より良い医療のため、患者さんは主治医の先生と十分に情報共有してくださいね。

Nagoya Disease ナディック 通信 Information Center

ナディックからのお知らせ

患者情報センター（広場ナディック）では患者さん自身が医療に関する情報収集ができるよう、一般的な医学書やパンフレットの閲覧、DVDの視聴等ができます。

新型コロナウイルス感染症の影響による利用休止を経て、再開から1年が経過し、2025年2月には、肝炎啓発のイベント及び肝臓病教室を開催しました。

今後の患者さん向け勉強会などの開催については、病院ホームページもしくは院内掲示でご案内させていただきます。感染対策上の配慮を必要としますが、是非ご活用ください。

〈利用可能日〉入院患者さん：月・水・金曜日

外来患者さん：火・木曜日

〈利用時間〉平日10時～13時

（休日祝日年末年始を除く）



名大病院公式
YouTube チャンネル

